（別紙４）

公表　保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	moop			
○保護者評価実施期間	2025年　12月　15日		～	2026年　1月　10日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	14名	（回答者数）	10名
○従業者評価実施期間	2026年　1月　10日		～	2026年　1月　30日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	３名	（回答者数）	３名
○訪問先施設評価実施期間	2026年　1月　20日		～	2026年　2月　10日
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	17	（回答数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　2月　3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様からのご相談に対し、専門的な知見に基づいた迅速かつ丁寧な助言を行える「相談支援の質の高さ」が当事業所の強みです。保護者様との対話を大切にし、お子様の特性に合わせた具体的なアドバイスを提供できる体制を整えています。	保護者様が「困った時にいつでも相談できる」と感じていただけるよう、送迎時や電話、連絡帳等を通じて、心理的なハードルの低い相談環境づくりを意識しています。お子様の特性に合わせた具体的な助言を行うため、スタッフ間で支援内容を日々共有し、一貫した視点でのアドバイスを心がけています。	強みである相談支援をより盤石なものにするため、情報の「見える化」と「定例化」を強化します。 透明性の向上： 毎日の支援体制を可視化し、安心してお預けいただける環境づくりを徹底します。 定期的なフィードバック： 受動的な相談対応にとどまらず、事業所側から定期的にお子様の様子を報告する仕組みを構築し、ご家庭との連携をさらに充実させてまいります。
2	放課後等デイサービスでは実施している事業所が少ない『保育所等訪問支援（学校訪問）』を積極的に行い、保護者様と学校側の架け橋として機能している点。専門的な視点で本人の様子を翻訳し、集団生活での適応を具体的にサポートできる体制は、当事業所の大きな強みです。	活動内容の報告（「何をしたか」）だけでなく、お子様の「感情の動き（何に驚き、何に笑ったか）」に焦点を当てたフィードバックを意識しています。発達段階において、本人が達成感を感じた瞬間のエピソードを具体的にお伝えすることで、ご家庭でもお子様を褒めるきっかけにしていただけるよう努めています。	保護者様とのコミュニケーションをさらに深めるため、支援体制（当日人数や配置）の可視化や、活動内容の積極的なフィードバックをシステム化すること。送迎時だけでなく、定期的な面談枠を設けることで、より計画的な支援共有を目指します。
3	保護者様が抱える日常の困りごとや不安に対し、随時的確なアドバイスを提供できる相談体制。保護者様との対話を大切にし、一人ひとりのご家庭のニーズに合わせた柔軟な支援提案を行っている点。	保育所等訪問支援において、保護者様の思いをただ伝えるだけでなく、学校側が協力しやすい具体的な「支援案」へと専門用語を噛み砕いて提案することを意識しています。三者が対立するのではなく、同じ方向を向く「ワンチーム」になれるような調整役としての立ち回りを工夫しています。	本人がどれだけ療育を楽しんでいるか、その表情や反応をより具体的に保護者様へお伝えする工夫。連絡帳の記載の充実や、視覚的な記録の共有などを通じて、ご家庭と一緒に成長の喜びを分かち合える仕組みを強化します。